

「語り継ぐ」続編 ～震災 30 年を越えて伝えたいこと～

「震災 30 年限界説」

災害の記憶は、発生から 30 年経つと”継承が難しくなる”との説が震災 29 年を迎えた 2024 年 1 月にも記事で掲載されていた。

継承は大切…

しかし、防災シンポジウムや語り部講演など、いろんな形で発信が続けられているが、未災者や防災に関心のない人がなかなかきてくれないのが現状。

また、

災害も多様化している今、社会全体で継承すべき記憶や教訓と、個人から個人に伝えるべきもの…など

“継承”のフィールドが広がってきたことも理由の一つではないかと言われている。

防災を専門に学んだ”カンボウ卒業生”は、この言葉を聞いてどのように感じるだろうか？

初代科長を務めた諏訪清二先生の教えによると

『語り継ぐ』というのは『語る』と『継ぐ』。

すなわち、人から聞いた語りを人に継ぐこと。

一人一人が「語り継ぐ」ことで時の壁を越えるしかない。

「震災 30 年限界説」そんな心配いらないよ!と

社会へメッセージを発信するだけではなく、

今後の災害で被災された方に、未来への希望を伝えるものを残したい…と思い

カンボウ卒業生企画

『「語り継ぐ」続編 ～震災 30 年を越えて伝えたいこと～』プロジェクトを始めました。

阪神・淡路大震災の時は、親の傘の下で守られていた子どもたち（私たち）が守る世代になり、

次世代に伝えたい思いを伝える、「語り継ぐ」続編。

私たちが「語り継ぐ」ことで、限界は 60 年、70 年先になるはずです。

カンボウ卒業生の有志で

高校生時代に書いた「語り継ぐ」とともに、思いを残してみませんか？

◆寄稿だけでなく、SNS や情報発信が得意な人、映像制作が得意な人、デザイン・イラストが得意な人など、企画運営協力者も大募集!!

1. 発信方法

・媒体

YouTube や Facebook、Instagram などの SNS を活用しながら、寄稿されたものから順次発信していきます。また、全ての寄稿を冊子にまとめて記録に残すことも検討しています。

・期間

2024 年 9 月 1 日（防災の日）から 2025 年 1 月 17 日頃にかけて
※8 月中旬時点で集まっているものから順次発信していきます。

2. 形式

作文、手紙、絵、ビデオ、音声・・・など

それぞれが表現したい形での寄稿を募集します。

高校時代のように、文字数やページ数など厳密な設定はございません。

発信するにあたって必要なことは、個々にご相談させていただきます。

3. 進め方

一人で書きたい人、友人と集まって話しながら思いをまとめたい人・・・

好きなパターンで参加・進めていただけます。

今のライフスタイルの中で、無理のない範囲で多くの人に寄稿していただけると幸いです。

また、“カンボウで顔を合わせて語らうことからやりたいわ!” という人のために、『カンボウ卒業生のカフェテリア（仮）』の場も検討します。近況報告をしながら思いを整理する機会となれば幸いです。

※全国・世界で活躍中の卒業生がいますので、ハイブリット（対面+オンライン）形式での実施も進めてまいります。

4. 寄稿内容

- ・自分や友人の「語り継ぐ」を改めて読んで、追加して伝えたいことを寄稿する
- ・改めて 1 から震災体験をまとめて寄稿する
- ・自分の被災体験からではなく、他の卒業生の語りを取材してまとめて寄稿する
- ・仲がいいカンボウメンバーで集まり、話したことを文字起こしをして寄稿する
- ・語り継ぎたい思いを子どもの名前につけた。その思いを子に向けた手紙に綴って残したい
- ・復興した街並みをビデオで撮影し、語りをつけて寄稿する など・・・

5. 参加申し込みについて

寄稿したい人、企画に賛同して一緒に作っていきたい人、まだよくわからないけど聞きながら検討したい人は、

3 月 31 日（月）までに以下の Google フォームへ必要事項を記入しお申込みください。

今後は、LINE オープンチャットを開設し、情報共有しながら進めていく予定です。

◆応募フォーム◆

<https://forms.gle/UayaVM3uYNQwTmbe8>



「語り継ぐ」続編 呼びかけ人

1 期生 前田 緑

2 期生 中野元太

9 期生 宮本 好